

アンケートの集計結果の報告

区会活性化推進委員会

昨年10月に「区会活動活性化委員会」が実施した「グループわ会員アンケート」の集計結果について報告いたします。

アンケート回収率：48.7%！

回答総数は572件（会員総数；1180名）で、回収率は48.7%と予想より若干低い回収率でしたが、約半数の会員の方から、貴重な意見を集約することができました。回収率の高かったのは（1）灘区（52.1%）、（2）西区（51.9%）、（3）北区（50.4%）でした。

設問は4項目に亘っており、（1）区会活動の認知度、（2）区会活動への参加実績、（3）広義のボランティア活動への参加実績、（4）今後のボランティア活動への参加意欲を尋ねるものでした。

区会活動を知らない人が約1割！

先ず、第1項目の区会活動の認知度については、知っている：57%、一部知ってる；36%、知らない；7%という結果で、1割弱の人が知らないと回答している。とくに、灘区（17%）、中央区（11%）、兵庫区（12%）の会員は、知らない人が多く、区会として区会活動の情報を周知する努力が望まれる。

区会活動不参加者が全体で3割強！

次に、区会活動に参加したことのない人が3割強に達している。とくに、須磨区および北区では、不参加の理由として「多忙のため」と挙げている

人が、他の区に比べると圧倒的に多く、須磨区では（42%）、北区では（44%）という結果であった。これらの区会員の活動の主体が、部活動になっているためだと思われるが、地域活動の重要性をもう一度認識していただくチャンスを区会として作って行くべきであろう。また、不参加の理由として、「活動への誘いが無い」との回答が、灘区（13%）と須磨区（13%）で他の区に比べて突出しており、情報の連絡方法について、再考を要すると思われる。

6割強の人がわ以外の活動経験者！

第3項目として、“わ”以外のボランティア経験の設問では、約6割強の人が経験があり、しかもその内の約半数が地域に密着したボランティア活動を経験している。

ボランティア参加意識極めて大！

設問4で、今後の地域密着ボランティアへの参加の意志を尋ねると、兵庫区（56%）を除くと、7割～9割の人が参加の意思を示しており、ボランティア活動をさらに活発化させるための下地は十分にあると思われる。その活動内容は、子どもの健全育成（34%）、施設訪問（32%）、清掃奉仕（22%）が上位を占めている。

今回のアンケート結果は、各区会毎に内容分析をお願いしているので、貴重な会員の声を十分に分析して、区会活動の活性化に役立て行きたい。

最後に、アンケートにご協力いただいた会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

編集後記

平成22年の「寅」年が明けた。ものの本によると「寅年は十二支の三番目にあたるので、芽が勢いよく伸びはじめる、少しずつ活気が出てきて、万事順調に進みはじめる年だとされています。（子年は十二支の最初ということで、活発に種をまくべき年、次の丑年は蒔いた種が芽を出し成長するものを、忍耐強く見守る年。）」ということだそう。

昨年、政権交代があり、果たして寅年のように万事順調に進む年になるのだろうか。この厳しい経済状況のなかで、藁にでもすがる思いで、期待せざるをえないのだろうか。とにかく、神頼みで

期待しましょう。

昨年来、区会活性化委員会の活動の一貫として、区会活動の種々の問題点を洗い出すために、会員全員にアンケートを取り、その結果がまとまりつつある。その一部を本号で紹介しているが、各区会さらに、詳細な分析が行なわれているので、その結果を是非活性化に活用して、地域密着型のボランティア活動に反映させてほしい。

（編集担当 今田 紘）

